

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

● Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組 本部OB会

ニユース

No. 171 2012年5月 発行

〔JR東労組OB会第16回定期総会報告〕

役員体制を強化し、一年間の方針決定

被災者支援・脱原発の闘いは今後も継続

地域活動と総車センターの活動強化を重点課題に

4月23日、桜前線が北上する中、すっかり葉桜となった東京のJR東労組本部・大会議室で「JR東労組OB会第16回定期総会」が開催されました。総会には全12地本から集まった委員・OB担当者のほかに、田城参議院議員を始め多くの来賓も激励のために駆けつけました。

総会は12時より、議長に島崎明氏(東恩)を選出して始まり、

大熊会長は「浦電事件の最高裁による上告棄却は許せない。大震災で被災したOB会員を引き続き支援していく。今年は各地でレク活動を活性化させ、

総合車両センターの活動強化に力を注いでいく」と挨拶しました。

その後、中央本部の石井副委員長より、JR東労組の職場活動を規制・排除する攻撃を強めている会社の動きについて、説明がありました。



OB会総会で挨拶される田城議員

新たな取り組みの方針

来賓には最高裁で「上告棄却」の不当判決を受けた美世志会の小黒加久則さんや、すっかり議員の風格も付いた田城参議院議員を始め、数多くの方々が見えられ、激励の挨拶を頂きました。

総会はその後、本部OB会より「被災者支援 脱原発」や一年間取り組んできた経過報告と、今年から新たに開催する「総合車両センター」の交流会や、「地域活動の活性化」等を謳った一年間の方針の提起がありました。また活動を支えた会計報告や会計監査報告があった後、休憩を挟んで質疑応答に入り、12地本のOB会より13名の発言がありました。

要望意見が続々と

13名の委員からは、各地方で取り組んできた「脱原発署名、被災家族激励の仙台行動、OB会初の講演会、現役の政策フォーラムへの参加、県高退連への

- 参議院議員 郁 則実 子夫 三
- 美世志会 城 黒端 瀬宮 石
- JR総連OB連絡会副会長 田 小川 木二 一
- 9条連事務局員
- (株)鉄道ファミリー社長
- (株)自然と人間社社長

これらの貴重な意見の中で、中央本部への要望意見は、後日、文書で本部へ申し入れをし、本部OB会へ出された要望意見については新役員体制になった「第一回役員会(三役会議)」で検討していくことになりました。

5名の新役員を加えて

新役員体制は、会則の一部改正によって副会長が一名増え、総合車両センター出身の古川建三さん(郡山総合車両センター)が就任し、五名に増強された体制になりました。総会は、声高らかに「総会宣言」が読み上げられた後、16時50分に無事終了しました。

選出された新役員

- 顧問 小澤康秀 (八王子)
- 会長 大熊勝明 (東京)
- 副会長 佐々木源幸 (盛岡)
- 副会長 古川建三 (仙台)
- 副会長 島崎明 (東京)
- 副会長 本田祥章 (八王子)
- 副会長 金子秀一 (高崎)
- 事務局長 伊藤義男 (東京)
- 事務局次長 石井宏武 (東京)
- 事務局次長 川崎昭雄 (東京)
- 事務局次長 植松健 (八王子)
- 事務局次長 君塚敏男 (本部)
- 会計監査員 神 洋一 (秋田)
- 会計監査員 岸 史郎 (横浜)



八王子地本OB会が初の講演集会を開く

4月7日、八王子地本OB会主催による講演集会が、OB会員56名が参加して、地本会議室で開催されました。八王子地本のOB会が「講演集会」を開くのはOB会結成以来、初めてのことでした。

奈良初代地本委員長を迎え

五六名のOB会員が参加



講演者は、八王子地本初代委員長の奈良剛吉さんで、病後にもかかわらず、お話を頂戴しました。

「傷口の治りが早いネ」と言われた事を得意気に紹介しながら、病気に負けない身体を創るためには「納豆」や「ヨーグルト」などの発酵食品を摂ることが大切だと話されました。

OBも後輩と共に

講演は、「JR東日本会社」が最近変質してきた経緯を具体的な例を挙げ、熱く語られました。そして「後輩たちは苦闘している。OBも悩みと

苦しみを共有し、一緒に闘ってほしい」と、理不尽には大声で

講演は更に続き、「橋下大阪市長や石原都知事の人氣が高いのは、既成政党への不信と経済・財政危機があるからだ。OBは世の中の理不尽な事には声を出し続け、現役組合員と共に闘ってほしい」と結びました。

この講演には、八王子地本から沼澤副委員長、本部OB会から伊藤事務局長と笹野事務局次長も参加されました。この講演集会に参加したOB会員は、病気を完治した講演者の奈良さんから元氣と勇氣をもらい、変質したJR東日本を「人間尊重企業」の精神に立ち返らせようと決意を固めました。

（八王子地本OB会 味原 進）

わが町の有名人

今月から始まる「わが町の有名人」を紹介する第一回は、盛岡地本OB会の中、野球に熱中しながら人の面倒見の良い内海勝行さんを紹介します。

甲子園出場果たすまでは

野球好きは自らもシニアクラブの監督を務める傍ら、45年間ただ一筋母校の岩手県立気仙沼向洋高校の甲子園出場を夢みて、私設応援団長として県予選から熱狂的に応援する姿は、しばしば

地元新聞やテレビをにぎわすほどです。

また内海さんは、地本OB会の副会長を務めながら町内会の自治会長としても活躍。東日本大震災では

自宅を流出しながら

も、同じ町内会で被災した人達を激励して歩いていきます。

そんな内海さんの姿を見て「有り難いことです」といつ町民の



そういつ内海さんが心を和ませるのが、意外にも詩吟という高尚な趣味。二五年間「錦城会」で鍛えた吟詠で、被災の支援をしてくれた全国のOB会員に「御礼がしたい」と暇を見つけては練習に励んでいます。

他人のためなら苦労も惜しまない熱血万年青年「内海勝行」

待望の「我らの声」第13号 好評発売中!

『我らの声』第13号は、4月20日に発行され、各地本OB会で購読の申し込みを受け付けています。

大震災体験者の証言、原発事故への怒り、私の生き甲斐など、読み応え充分の内容になっています。

B5版 192ページ 頒価：500円

被災地のローカル線無くすな!

被災地では、沿線住民が中心になって、山田線・気仙沼線・大船渡線などの早期復旧を目指して「署名活動」を行っています。被災したら「ローカル線廃止」ではたまりません!

地域住民の重要な足になっているローカル線。署名用紙は、地本OB会役員まで

被災から1年、被災者激励会開催



釜石支部OB会/4・21 被災者激励会

盛岡地本・釜石支部OB会は、4月21日、宮古市内の沢田屋旅館において、被災者激励会を開催しました。激励会には被災者一〇名を囲み、三〇余名が参加し、水本事務局長の司会で13時30分に開会されました。主催者を代表して釜石支部のOB会長の久保成次さんは「被災された皆さんの苦労は、言葉に言いあらわせないと思つ

乗り越えてきた。今日を一つの節目として、皆さんの結束した力をさらに強化し、復旧復興に向けて奮闘している」と、OB会の一層の強化を呼び掛け、全体の拍手で確認しました。来賓では地本委員長のメッセージが読み上げられ、本部OB会・佐々木副会長、釜石支部・山崎委員長、地本OB会・小田島会長の順で挨拶がされました。

被災者を代表して、小林一二三さんから「大津波で自宅と66年生きてきた証を失いましたが、OB会の仲間の皆さんの物心両面のご厚情を頂き、JR東労組OB会という素晴らしい組織の一員でいることに幸せと誇りを感じ、共に活動出来ることに自負を抱いています」と謝意が述べられました。

この激励会には、八九歳の大先輩も元氣な姿を見せ、懇親やかに酒を酌み交わし、の強化・発展に向けた



意思統一がされ
ました。